

【凡例】

- 標柱のある歴史遺産
- 主な歴史遺産等
- 公共施設等
- 推奨ルート
- 消滅した古墳
- 現存する古墳
- 消滅した瓦窯跡
- 現存する瓦窯跡



上総国分寺跡屋根瓦復元



祇園原貝塚・瓦窯跡

KD-01

史跡上総国分尼跡展示館
上総国分尼寺跡

KD-02

上総国分尼寺
復元建物



稲荷台1号墳
記念広場

KD-06



古代道路跡

「王賜」銘鉄剣
(稲荷台1号墳出土)

297

国道
297号



国分寺薬師堂



木造金剛力士像(阿形)



将門塔

いちばらフィールドマップ

国分寺台

総距離 約3.8km (移動時間のみで約114分)



諏訪神社

KD-07

神門5号墳

KD-05

南田瓦窯跡

国分寺台中学校

国分寺台小学校

持塚3号墳
(惣社行人塚)

国分寺台東小学校

市原市役所

スタート

ゴール

消防局

市民会館

仁王門

将門塔・金剛力士像

西門跡

上総国分寺跡

国分寺薬師堂



戸隠神社

神門瓦窯跡

KD-04



国分寺台西中学校

上総国分尼寺政所院跡

国分寺中央公園

国分寺中通り

世給匠興

更級通り

国分寺通り

スーパー

コンビニ

コンビニ

国分寺公民館

コンビニ

コンビニ

コンビニ

コンビニ

コンビニ

コンビニ



KD-04 神門瓦窯跡

上総国分僧寺跡の南西側斜面地に位置し、現在は農業用溜め池に面して立地します。5基の瓦窯跡が見つかり、いずれも半地下式の登り窯と考えられていますが、部分的な調査のため、窯の構造はよくわかっていません。出土する平瓦の凸面に格子模様の叩き目を残すのが大きな特徴で、8世紀末葉から9世紀初頭には窯の操業が開始され、国分寺の補修瓦を焼いていました。



KD-07 諏訪神社

神社縁起によれば、大永年間(1521~1528)に信濃村上氏が当地の領主になった際、信濃国諏訪の上下諏訪神社を祀ることを願ひ、この地に分祠したと伝わります。境内は天神台遺跡・諏訪台古墳群のなかにあり、市内最古の7,000年前の貝塚が地中に一部残るほか、社殿向かって右側に諏訪台10号墳、左側に諏訪台9号墳が現存し、9号墳は出羽三山信仰の供養塚に転用されています。



KD-05 神門5号墳

前方後円形の墳墓ですが、前方部が短く、畿内の出現期古墳に似た形態をしています。3基で構成される古墳群は、3世紀前半に5号墳、4号墳、3号墳の順に相次いで築造され、東日本でも最古級の古墳として知られます。古墳群の母村となる中台遺跡からは、近畿・東海・北陸地方の系譜をもつ土器が多く出土し、邪馬台国時代における東日本の交流拠点であったことがわかります。



KD-06 稻荷台1号墳

直径27mの円墳で、墳丘中央の埋葬施設から見つかった「王賜」の銘文が象嵌された鉄剣は、国産の有銘刀剣としては最古のものとされます。一緒に出土した須恵器の年代から5世紀中頃の築造と考えられ、畿内の大王に武人として仕え、その功績により鉄剣を授かったと考えられます。古墳は調査後に消滅しましたが、現地には3分の1の大きさで復元した記念広場が整備されています。



見学される皆様へ

- ★歴史遺産は、郷土の歴史文化を伝えてくれるかけがえのない財産です。個人所有物であったり、私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。
- ★駐車場は基本的にありませんので、公共交通機関を利用しましょう。路上駐車や無断駐車は厳禁です。
- ★社寺の境内や墓地は、信仰の対象です。行事が行われていたりする場合もあるので、迷惑にならないよう行動しましょう。
- ★ゴミは必ず持ち帰ってください。
- ★他人の家や社寺など建物の中に、無断で入らないようにしましょう。
- ★見学の際は、所有者の許可を得るのが基本です。特に団体で見学されるような場合は、事前に了承をとるようにしてください。
- ★保存や管理の都合上、公開日が決まっていたり、見学ができない場合があります。事前に確認して、公開日に見学しましょう。

いちほらフィールドマップ

制作・発行：市原市教育委員会

市原歴史博物館 〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 Tel.0436-41-9000 Fax.0436-42-0133

令和3年3月 第1版第1刷発行

I Museum Field

国分寺台



大国上総国の中心地として栄えた国分寺台エリア。東京湾と養老川に面したこの地は、原始古代から各地の文物や文化が集まる、房総半島の玄関口でした。全国に誇る歴史遺産が数多く残る国分寺台は、今もなお輝きを放ちます。

I Museum



KD-01 祇園原貝塚・瓦窯跡

縄文時代の後期から晩期まで約1,000年間続いたムラで、100体を超える人骨やまつりを行った大型建物跡などが見つかりました。竪穴建物跡などのくぼ地を除くと貝層の密度は高くありませんが、奈良時代に国分尼寺を造営した際、貝塚を整地した可能性があります。貝殻や土器片が散布する雑木林の斜面からは、平安時代初頭に尼寺の補修瓦を焼いた瓦窯跡も見つかっています。



KD-02 上総国分尼寺跡

天平13年(741)の聖武天皇の詔によって、全国60か所余りに建てられた国立寺院で、正しくは法華滅罪之寺と呼ばれます。寺域は全国最大規模を誇り、発掘調査によって付属施設を含めた古代寺院の全貌が初めて明らかになった国分尼寺跡として、主要部が国指定史跡として保存されているほか、ガイダンス施設の史跡上総国分尼寺跡展示館と中門・回廊復元建物を公開しています。



KD-03 上総国分寺跡

天平13年(741)、仏教の力で国を安定させようとした聖武天皇が全国に建立を命じた僧寺と尼寺からなる寺院で、僧寺の正式名は金光明四天王護国寺です。南大門・中門・金堂・講堂が南北に並び、回廊内東側に七重塔を配置するのが特徴で、屋根には平城宮を模した最先端の文様の瓦が葺かれました。塔跡には巨大な礎石が残り、寺の中心部は国指定史跡として保存されています。